

京都市文化観光資源保護財団

会報

No.22



もくじ

日本庭園の移り変り(3) 京都大学名誉教授 関口瑛太郎 P 4

シリーズ まもる㉙ 文化財の保存管理について

京都国立博物館 管理課長 根本栄夫 P 7

会員だより P 9

保護財団の活動 P 10

会報題字 理事長 佐伯 勇

会 報

No.22 54. 1. 1

編集・発行

財団 京都市文化観光資源保護財団

法人 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606 電話 075-771-6051

募金にご協力いただき
ありがとうございました

寄附者芳名録(敬称略)

53. 9 ~ 53. 11

一法人及び団体の部ー

〔特別会員〕

※株式会社三星化学研究所〈51万円〉

〔普通会員〕

※株式会社じゅらく工芸織〈20万円〉

※要建設株式会社〈18万円〉

※織悦株式会社〈14万円〉

※丸三株式会社〈12万円〉

〔賛助員〕

※株式会社吉田山荘〈4万円〉

※福寿染工株式会社〈4万円〉

※株式会社曾根商店〈2万3千円〉

株式会社光文書院〈2万円〉

※ヤマカワ株式会社〈1万2千円〉

京都信用金庫嵯峨支店〈1万円〉

野橋株式会社〈1万円〉

一個人の部ー

〔特別会員〕

※左近真二〈20万5千8百円〉

※福林貞三〈12万円〉

※福井忠明〈11万3千5百拾円〉

〔普通会員〕

※山口享〈7万円〉

※田中正男〈6万6千5百円〉

※左近智恵子〈6万5千8百円〉

※佐野綾子〈4万3千円〉

※丸山末樟〈4万2千円〉

※粟村好太郎〈4万円〉

※三原慶三郎〈3万8千円〉

※大橋経治郎〈3万6千円〉

※土屋祐一〈3万5千円〉

杉島光子〈3万円〉

※梅岡大祐〈2万8千円〉

※三浦俊良〈2万5千円〉

※岡本保止〈2万4千9百9拾9円〉

※池田正太郎〈2万1千円〉

※土手修〈2万円〉

榎本勘二〈2万円〉

※有本安喜子〈2万円〉

※尾池恵美子〈2万円〉

〔賛助員〕

※今井憲一〈1万8千円〉

※吉田佳世〈1万2千円〉

※友田弘治〈1万1千円〉

匿名〈1万円〉

※吉住幸一〈1万円〉

※内田和正〈1万円〉

※山田省曹〈1万円〉

天野和夫〈1万円〉

※田村彰敏〈1万円〉

※高橋一男〈1万円〉

※今井二郎〈9千円〉

※松本善次郎〈9千円〉

※伊藤重和〈8千円〉

※富田春子〈7千円〉

※鈴木光子〈6千2百円〉

坪田登〈5千円〉

岸村国三〈5千円〉

岩田剛〈5千円〉

※薬師寺ハナ子〈4千円〉

※信ヶ原良武〈4千円〉

※本多恒治〈4千円〉

※駒井桂之助〈3千5百円〉

※堀哲夫〈3千3百円〉

※田中克子〈3千2百円〉

※前尾修司〈3千百円〉

※村上松次〈3千円〉

※西原寿子〈3千円〉

※桜田弥左衛門〈2千5百円〉

岡村ハマ〈2千円〉

金子節子〈2千円〉

恒川久男〈2千円〉

松田良雄〈2千円〉

市川明子〈2千円〉

吉田敦子〈1千円〉

水島幸子〈1千円〉

細井伸子〈1千円〉

一社寺の部ー

〔特別会員〕

※醍醐寺〈350万円〉

〔普通会員〕

法界寺〈30万円〉

〔賛助員〕

※龍源院〈21万円〉

(※印は追加寄附の篤志者、寄附金額は累計額)

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

財団法人京都市文化観光資源保護財団

理事長

佐伯 穗



除夜の鐘の音とともに人それぞれ異なった思いをもってこの新しい年をおむかえのことと存じます。

当財団にとりまして、この新しい年は、財団設立10周年を迎えることとなり、その意義もひとしおのものがあります。当財団は、ご承知のとおり全国財界、文化人などの力強いご支援、ご声援により設立され、今日に至るまで国民各層の幅広いご協力によって、京の文化観光資源をまもる国民運動として、当財団の目的事業の成果を年々あげてまいことができました。

さらに、現在もなお多くの人々からのご支援をいただいてこの新しい年をむかえることができましたことは誠に慶びにたえません。

これも京都がただ単に京都人の京都だけでなく、国民的心のふるさととしての存在意識のあらわれであり、急速にうつりかわる現代社会において毎日を忙しく過ごされている人々にとって、自然美ととけあう古都、京都が日本の心のふるさととしてこよなき憩いと、やすらぎをあたえてくれるからだと存じます。

しかし、この京都の歴史的文化遺産も放置していては保存できるものではありません。しかも急速な都市開発の進展にともなうその保存も近年とくに難しく、政策的にも財源的にもまだ必らずしも充分とは申せません。

幸にも、全国的に文化遺産に対する愛護思想が高まりつつある今日、当財団といたしましては、なお一層こうした気運をもりたてつつ古都における文化観光資源保護事業の総合的な活動を強力に展開して国民的資産というべき京都の文化観光資源の保存につとめたいと存じます。

今後とも皆様方におかれましても、当財団に積極的な参加、ご援助を賜わりますようお願いいたしますしてわたくしの新年にあたってのごあいさつといたします。

日本庭園の移り変り(3)

京都大学名誉教授 関口鉄太郎

江戸時代には、時代趣味の表現された各種の庭園が現われた。その例として尾州侯の戸山荘の如き縮景式庭園や、東京小石川大塚の別業六園のことを前に述べたのであるが、そのほかこの時代の庭園で注目すべきこととして実用的要素の導入や花卉（花もの）の復活が認められる。

例えば庭園における実用的要素としては、庭園中に鴨池をつくるとか、弓場・馬場などを設けるとか、あるいは水戸偕楽園（現・常磐公園）において矢篭を植え、梅樹を培養して軍用のために供したと称せられるが如き（徳川斉昭の考慮）、あるいは又、庭園の中に田畠を設け、当時国本（国の根本）と信じられていた農事を忘れぬために、そこで農夫に植え付けから収穫までの作業を実際に行わせてそれを見学するというようなことをした。そのほか、茶園、花畠、薬園など何れも実用的要素と見て差し支えないものである。

次に、花卉については、かの王朝時代（平安時代）には園主が好むままに自由に、サクラ、モモ、ボタン、キク、その他の花ものを庭園に用いていたのである。前にも述べたように鎌倉時代に入って禅宗による一つの趣味傾向として庭木は四時変化の少ない常緑樹を用いることになり、そのことは単に茶人によって一層普遍的となつた。そしてマツ、スギ、ヒノキ、ツガ、モミ、カシ、シイ、モチ、モッコク等が主として用いられたようである。然るに江戸時代に入り文芸復興の機運に向って再び自由の思想の下に種々の庭園が築造されるようになり、殊に大庭園が流行して庭園の各部分に変化を試みよう

として、サクラの如きものも庭木として復活し盛んに用いられるようになった。また、ボタン、キクなども庭園に植えて観賞されたようである。

さて、ここで一般庭園と少し趣きを変えて特殊の目的を以て作られた一、二の庭園について述べて見たいと思うのである。それは一応個人の庭園として設けられるのであるが、利用の上では一般士民に開放せられるのであって、その点においては今日、都市に見られる普通の公園と変りはないのである。そのような庭園の建設を試みたのは松平定信と徳川斉昭である。

松平定信は白河樂翁と称し政治家として、また学者としても優れた人物であったが、同時に多趣味の人であつて造園にも興味を有し、江戸においては大塚の邸に六園を築き、築地の邸には浴恩園を造り、彼独特の主張を遺憾なく表わしている。けれどもそれらの庭園は如何ほど個性の表現せられたものであつても所詮自己の楽しむ庭園である。

ところが定信が領地白河（福島県）の南湖に経営した大庭園は全く庶民の保健享楽を目的としてつくられたもので今日の公園と全く同一物である。南湖は大沼とも、また関の湖とも呼ばれ、白河の南方にある沼であるが、永く荒廢していたのを定信が見て堤を修理し風景を整えて農業上の灌漑用池とすると同時に一般領民の公園として提供したのである。今日、南湖公園に建てられている廣瀬典の書いた碑を読むと、その消息がよく分る。そして、今もなお残存する共楽亭を題として詠んだ彼の歌に「山水の高き低きもへだてなく共に樂しきまどろすらしも」と言っているのを見ても、定信が自分一個のために南湖を造ったのでなくて、一般士民と共に楽しんだものであったことが分るのである。

定信が南湖を造ったのは文化の初年（1804～）であったが、その後、天保年間（1830～）に至り、水戸の徳川斉昭も偕楽園なる公園（常磐公園）を水戸に造っている。ちなみに世界的に見て近代的都市公園の発祥はアメリカのニューヨーク市のセントラル・パーク（現存）で、それは1850年頃に創設された。

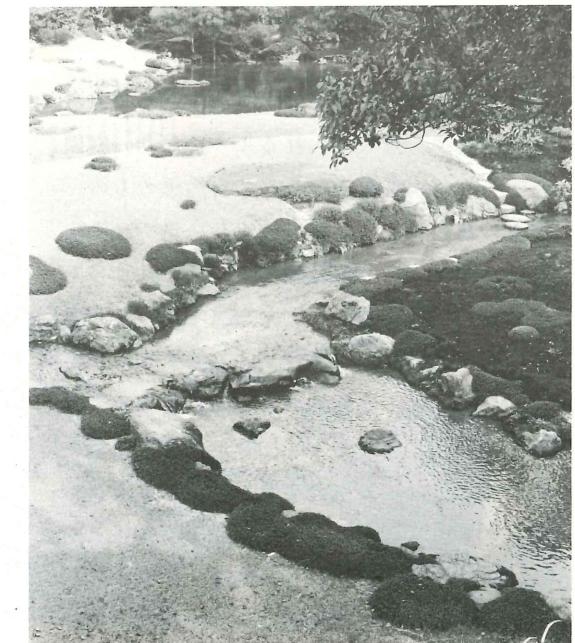
今、偕楽園に建てられている斉昭自筆の碑文「偕楽園記」を読んで見ると、人間を弓馬に譬えて「弓有^リ一張^一弛^リ而^ハ強^ム而^ハ弱^ム一 弩^一而^ハ強^ム而^ハ弱^ム」と云ふ。言い、人間も四六時中休むことなく働いてばかりいては宜しくない。時に休息を必要とすること弓馬と同様である。それ故に、この偕楽園を造る目的は自分一個のためにあらずして士民のためであるから、國中の人の利用を望むと証している。そして園号も衆と共に楽しむという意味から偕楽園と称したのであった。

以上で江戸時代の庭園の概要を知り得たことと思うのであるが、なお当代の庭園で見逃すことのできないものに大名庭（だいみょうにわ）の一組がある。前にも述べたように、幕府の参勤交代の制がしかれてから、諸大名は自國と江戸との往来も多くなり、江戸や地方に大邸宅を構え立派な庭を造るようになった。それらの庭園がいわゆる大名庭と称せられるもので、今日に残る有名なものでは、例えば、東京の小石川後楽園（水戸初代藩主徳川頼房の創設）、六義園（東京駒込、柳沢吉保の経営）、兼六園（金沢市、前田家の旧園）、岡山の後楽園（備前藩主池田綱政の経営）、栗林園（高松市、生駒藩主寛永年間に南湖の飛猿岸付近を作庭、延宝二年藩主松平氏が拡張）、熊本市の成趣園、（通称

水前寺庭園、水前寺の跡に熊本藩主細川氏が經營）、広島の縮景園（広島市、初代藩主浅野長晟の創設）、岡山の衆樂園（岡山市、明暦時代藩主長継の経営）、愛媛県の天赦園（宇和島市、寛文10年藩主伊達宗利の浜御殿を文久3年に宗紀が改造）、福島県会津若松市の会津松平氏御薬園等がそれである。

江戸時代をおわって明治、大正、昭和に移るのであるが、この時代には大正3年（1914年）～大正8年（1918年）に第一次世界大戦が、そして昭和16年（1941年）～昭和20年（1945年）には第二次世界大戦が勃発した。

さて、明治以後の各時期におけるわが国の庭園界の全貌を概観するに、まず大まかに区分して第二次世界大戦を挟んで、その前期と後期に分ち、前期に見られる庭園様式の特徴としては、(1)欧米庭園の模倣、(2)江戸時代から引き続いて



明治時代の代表的庭園 無隣庵

見られる伝統的な庭園の継承、(3)それら二系統のほかに現われた自然主義的なもの等が見られる。(1)、(2)は容易に理解されるものであるが、(3)について少し説明を加えると——これは既成の様式から離れて全く新しい形態のものと考えられるのである。元来從來の日本式庭園はすべて自然風のものであったが、それはすぐれた日本の山水風景の写実、模写から出発したものであつたが、明治時代につくられた新しい自然式はそれら伝統的なものとは別に、日本の優れた自然風景を新しく見直して考案された自然主義的なものとして創られたのである。

(1)の欧米の庭園の模倣は、明治の始めに急激に西欧の文物が輸入せられるようになり、庭園にあってもその模倣が行われて自然風のもの、(東京の新宿御苑や京都の清風荘に見られる広い芝生を主体とした部分の如き——これはイギリス風景式と考えてよい)や幾何学的な規則正しい形態のもの——これは、イタリアやフランスなどに見られる建築式のもので、貴族富豪の屋敷に作られたのであって、それら貴族富豪の屋敷においては、洋風の建築を模倣し、それに付随してイギリス式、フランス式等の洋風庭園が設けられ、なお、それらは同時に從來の日本式庭園も忘れることが出来ないで、庭園の一部は日本式のものとして、要するに和洋折衷の庭園として設けられた。そしてそのような屋敷庭



東福寺方丈八相庭。昭和13年重森三玲氏の作庭による枯山水式禅院
庭園で、鎌倉時代の質実剛健な風格と現代藝術を取り入れている。

園は関東や関西に作られたのである。

次に第二次大戦後には、わが国庭園界にも大変革がもたされ、新古典的(Neo-classic)や抽象的(Abstract garden)のものも現われ、また共同住宅(アパート)が設けられるようになって、それに付属して共同庭園(Communal garden)が設けられるようになった。

その他、復古式のものやモダン・スタイルと呼ばれる新様式のものもつくられるようになった。復古式の中には枯山水(石庭)が和風住宅のほかに洋風建築にも諸方につくられるようになった。

なお、京都に作られた明治時代以後の庭園としては、市田氏対竜山荘、山県有朋の無隣庵、西園寺公の清風荘、野村家望雲荘、岡崎料亭つる家、南禅寺下河原町の細川氏邸等の庭園が有名である。

シリーズ まもる (22)

文化財の保存管理について

京都国立博物館 管理課長 根本栄夫

文化財保護法は、文化財を、その性質、態様に応じて、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物及び伝統的建造物群の五つの分野を文化財として定義し、それぞれ保護の対象としていますが、これらの文化財をまもり、後世に伝えていく最も重要なことの一つに「保存管理」があります。

ひとくちに保存管理といっても、対象となる文化財の種類が多岐にわたりますので、ここでは、博物館における文化財の保存管理についてその概要を述べることにしましょう。

まず基本的な問題として博物館は、保存と展示という相反する機能をになった恒久的な公共施設であることです。保存の面からのみ考えれば、展示はしないにこしたことはありません。世界に誇る正倉院御物の保存のすばらしさは、勅封によって保たれたといわれております。しかし、展示のない博物館はあり得ないので、ここに、保存と展示を調和させるという博物館の課題があるのです。

多くの博物館、美術館では、展示による保存上の影響をさけるため文化財の種類によって、展示期間を制限しております。例えば、ある博物館に有名な国宝の絵画があり、いつでもみられると思って出かけると展示されてなかつたりして、非常にがっかりすることがあります。陳列プランは前もって観覧者に知っていた

だくようにしてはいるのですが、それでも失望されることが多いようです。これは、照明や比較的条件の変化する空気に長期間さらすことによって、貴重な文化財が褪色したり、変質したりして劣化現象の起るのを防ぐためです。

それから、空気の温度や湿度の調整もまた重要なことです。近年、新しく建てられる展示施設はほとんどが空気調和装置をもっており、自動的に温湿度をコントロールできるようになっておりますが、実際問題として100%完全というわけにはまいりません。展示ケースの隅に水の入ったガラス容器を見かけることがあります。また、陳列室のコーナーに水蒸気を吹きだしている装置をみます。これは、空気が乾いてきまると文化財に亀裂が生じたり、変形してしまったりすることを防ぐための加湿器なのです。特に冬期は乾燥しますので、絵画や木造彫刻などにとっては大敵です。外の空気が乾燥している



文化財の保存管理には細心の注意が必要である

とき、博物館に入るとちょっとむし暑さを感じることがあります。これは文化財を乾燥から守るために、特に室内の空気を加湿しているためです。それとは反対に、梅雨になると湿度が高くなり、かびを発生させますので乾燥剤を置くとかして、文化財を良好な状態で保存するため適温適湿を常に心がけているわけです。そのほか、無紫外線など照明の問題や、防じんなど空気を浄化すること、さらに防虫などがあります。

防虫、防微については、文化財を搬出入のつど必ず博物館の殺虫室で、くん蒸処置をしてから移動させるのが理想的です。

次に、文化財の管理の問題ですが、前述のように博物館は、文化財を収集し保管して一般の方に鑑賞していただくことがありますので、常時、多勢の人が出入りします。そこで何よりも大切なことは、火災、盗難、き損等の災害を防止することです。たいていの博物館、美術館では24時間の警備体制をとり、常に文化財をまもり続けております。人による警備と監視テレビ、あるいは警報装置等による機械警備がそれです。お気付きの方もあると思いますが、陳列室の天井の隅にテレビカメラが取付けてあって、室内の動きが警備室のテレビ受



室内の動きが一目でわかるテレビ受像機装置

像機に手にとるように映つしだされます。ここでは常時、係員が文化財をみまわっております。

博物館は一般的のオフィスと違って、人の出入りのチェックもおこたってはなりません。特に閉館後の陳列品の確認と観覧者の有無の確認は大切です。夜間の警備もなおざりにはできません。地震のときは必ず収蔵庫、陳列室を確認して、文化財に異常がないかどうか調べます。また常時、安全の専門家である消防署、警察署とも連絡を密にしていく必要があります。

文化財は、こうして絶えず良好な管理のもとに保存され続けなければならないのですが、管理を必要以上に厳重にしますと閉鎖的になります。ここでも公開性と管理という相反する問題が生じ、その調和が必要となってくるわけです。「開かれた博物館」となるためには、この保存管理

という課題をいかに解決していくかにも深くかかわっております。そして、非常に大切なことは文化財を愛する心がその基調になくてはならないということです。紙数がつきましたのでこれで終りますが、京都国立博物館では、現在、我が国で最初の文化財保存修理所を建設中であります。

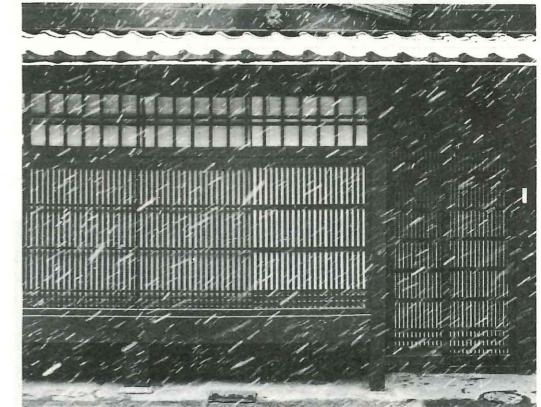
機会があればご紹介したいと思います。

会員だより



暮しに想う

今年の夏は大変に暑かった。京都は盆地のため特にむし暑いそうで、その暑さもやっと過ぎ去って、やれやれと思っていると、もう冬将軍のご到来らしい。丁度良い気候の頃は、やれ晴れだの雨だの、紅葉だの、風邪をひくの、衣替えだのと、めまぐるしく追われている間にすぐに過ぎ去り又、長い長い寒い季節へと向かってしまう。そして京の冬の寒さも、京都の底冷えとして有名である。こんな風に書いて見ると本当に生活するにはとてもたまたものではないと思ってしまう。先日新聞に、一番住みたい所は京都が1位で札幌が2位だと、千年の都は、日本人の心のふる里と言われるだけにやはり郷愁をそそるのだろうか。たしかに春は桜に、夏は青葉に、秋は紅葉に、冬は雪にと色どられる沢山の有名、無名の社寺の美しさ、それに附隨する数々の祭や行事とともに、全国に写真集、TV等で紹介され一度訪れると、その美しさに魅了されるのも当然なのかもしれない。しかし京都の人は冷たいのだとよく聞く、又見榮ぱりのわりにはけちなのだとも言われる。昔ながらの長いなぎの寝床の様な日のあまり入らない家のたたずまい、朝の掃除にも隣りと競い合うとか読んだ事がある。それは戦乱と重税から身を守るためにちかわれた、いにしえ人の知恵であるそうで現在は昔とは又、変わって来てい



るのだろうと思う。しかし美しい京の伝統工芸はそんな薄暗い家内工業的な場所で生産されている事は、今もあまり変わらない様に見受けられる。一つ一つこつこつと染料にまみれ、ほこりだらけになりながら美しい工芸品・染物・織物が作られている。その完成品が美しく華麗なればなおさら、想像出来ない狭い陰気な場所である事が多々ある。でもこんな事ばかり書くと、いやいや京都に住んでいる様に思われそうであるが、お祭好きの私等は、むし暑い頃には迫力ある祇園祭の宵山に、巡行に暑さを忘れ、青葉の頃の、もの静かな葵祭の行列に心はずませ、秋の時代祭の風俗絵巻の行列にいつも出かけて行ってしまい、そして時々お参りするお寺や神社ではその静けさの中で、日頃の憂さを忘れて、又新たな気持になれる自分を見つけ、やはり京都にいればこそと感じながらも、古き良き物を近代化された生活の場にも、大切に残していく欲しいと願っている一主婦です。

有本安喜子（京都市右京区西院）

保護財団の活動

“郷土芸能の夕”

京の六斎念佛を一堂に会し、
妙技を披露する



幼ない子供達も伝統芸能の伝承に寄与している。
苦労話を聞く飛鳥井アナウンサー

京都市自治80周年記念、京都六斎念佛無形民俗文化財選択記念公演 第9回“郷土芸能の夕”を京の六斎念佛と題し、去る10月28日午後6時30分より京都会館第2ホールにて開催。強雨といふあいにくの天候にもかかわらず、場内は日頃京都の伝統芸能に関心を寄せられている方々をはじめ、各六斎念佛保存会の地元の方々などで満席になるほどの盛況ぶり。

まず、開演にあたって当財団会長である船橋京都市長より挨拶のあったあと、近畿放送の飛鳥井アナウンサーの司会のもとでプログラムが進められた。

プログラムは、念佛本位の六斎をいまに伝える上鳥羽六斎の焼香太鼓のもの静かな念佛から始まり、段々と場内は六斎ムードにつつまれた。第2部では、風流化、芸能化してきた六斎念佛の四ツ太鼓、祇園離子をはじめクライマックス

の獅子と土蜘蛛などの曲が10団体の保存会により次々と演じられた。

六斎念佛を一堂に会したとあって各保存会の方々の演技にも、他の保存会に負けじと自然と力が入り観客席からは、華麗で力強いバチさばきなどに盛んな拍手が絶えることなくおくられ、つくづく伝統の重みを感じる夕べとなった。

“第21回文化財特別参観終了報告、東寺“五重塔”的内部など見学

去る11月11日(土) 多数の参加者のもとで実施。

東寺に在勤されている田中さまの詳しいご説明による案内のもと我国最高最大の五重塔の内壁画や、真言密教美術の数々を鑑賞し、参加者は終始興味深く説明に耳をかたむけていた。

また、弘法大師展が開かれている宝物館を見学したあと東寺塔頭の觀智院をおとずれ、武家屋敷風客殿や五大の庭、さらに宮本武蔵筆の襖絵などを見学。時間のたつも忘れるほどであった。



京の伝統行事、芸能写真パネル展を 関係機関などのロビーで開催

当財団では、京の伝統行事、芸能写真パネルの貸出しを行っていますが、最近、金融機関等よりの申し出により展示をおこなっています。一般に知られていない郷土の伝統行事、芸能のよさなど地域住民の方々に理解していただこうとに好評を博しております。

◆各種文化財関係の催し物等に貸出しを希望される方は、当財団事務局までお問い合わせ下さい。



第22回文化財特別参観のご案内

“鹿苑寺（金閣寺）”

後水尾天皇勅嘗になる方丈、その内にある襖絵や庭園など名高い金閣寺の隠れた文化財を見学いたします。

◆参観日時 昭和54年3月10日(土)午後2時
(参観時間 約2時間)

◆対象者 財団募金協力者とその家族

◆申込方法 往復はがき1人1枚に住所、
氏名、年令を記入

◆申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝
寺町13 京都会館内
京都市文化観光資源保護財団宛

◆参加費不用

※お問い合わせは財団事務局まで。なお、参加希望者が多の場合、制限することがあります。

日本のふるさと・国民の宝

◆京の文化遺産を 守りましょう◆

◆京都市文化観光資源保護財団は皆様方からの暖かい寄附金をもって、京都の貴重な文化財、伝統行事、芸能並びに文化財周辺の景観をまもる事業をおこないます。

◆ご協力いただいた寄附金は京都市文化観光資源保護基金として京都市が責任をもって管理し、基金から生ずる净財はすべて保護事業に充てることになっています。

あなたも文化観光資源の保護者として

金額の多少にかかわらずご協力を願いします

※ 新たに基金にご協力いただきます場合は、同封させていただきました納付書によりご送金下さい。



■東福寺三門全面解体修理

8年9ヶ月を費やし遂に完成する！

禅宗三門として我国の現存最古、

最高のものと云われている東福寺

三門は、幾度かの火災にあい現在の三門は、応永年間に再建されたもので大仏様式を用いた入母屋造り、二重門で棟高22メートル余り、昭和27年に国宝の指定を受ける。楼上には足利義持筆蹟の扁額、兆殿司、寒殿司筆による彩色天井画があり、また壇上には釈迦如来と十六羅漢（昭和50年修理、当財団補助対象となる）が安置されている。昭和44年より全面解体修理がおこなわれ、実に8年9ヶ月、5億円を費やす大工事であった。

■『京都の歴史』新装版全十巻予約募集中！

京都市が20余年の史料収集と10余年の編さん事業の結晶として完成した「京都の歴史」の新装全十巻（全十巻揃い特別頒布価格4万9千円・送料発行所負担）の予約募集がおこなわれている。お申し込み、お問い合わせは京都市史編さん所（〒606 京都市左京区岡崎公園内・

電 075-771-9413）まで

■東福寺三門全面解体修理

8年9ヶ月を費やし遂に完成する！

禅宗三門として我国の現存最古、

最高のものと云われている東福寺

三門は、幾度かの火災にあい現在の三門は、応永年間に再建されたもので大仏様式を用いた入母屋造り、二重門で棟高22メートル余り、昭和27年に国宝の指定を受ける。楼上には足利義持筆蹟の扁額、兆殿司、寒殿司筆による彩色天井画があり、また壇上には釈迦如来と十六羅漢（昭和50年修理、当財団補助対象となる）が安置されている。昭和44年より全面解体修理がおこなわれ、実に8年9ヶ月、5億円を費やす大工事であった。

■『京都の歴史』新装版全十巻予約募集中！

京都市が20余年の史料収集と10余年の編さん事業の結晶として完成した「京都の歴史」の新装全十巻（全十巻揃い特別頒布価格4万9千円・送料発行所負担）の予約募集がおこなわれている。お申し込み、お問い合わせは京都市史編さん所（〒606 京都市左京区岡崎公園内・

電 075-771-9413）まで

編集後記

◇新年あけましておめでとうございます。旧年中は、皆様方の暖かい御支援、御協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

当財団も本年で10周年を迎える、事務局一同この10年間築いてきた基盤をもとに新たなステップを踏み出す所存でございますので今後とも皆様方の御意見、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

◇あわただしい年始の準備も終わり、やっと静けさをとりもどす除夜、一年の時の早さを、つくづく感じられることだと思います。かどまつを見ることも、子供達が昔ながらの遊びに興じる風景も少なくなった最近のお正月をみなさま方は、どのように感じておられることでしょうか。

—表紙写真解説—

■大徳寺塔頭「養徳院客殿」

当寺は、永享年間足利満詮が先室妙雲院殿善室慶公のために東山に創建。応仁の乱に焼失し永正4年現在の地に再興されたといわれ、現在の客殿は明暦2年に旧材を用いて再建された。

昭和47年度に半解体修理がおこなわれ、当財団の補助対象となった。

——京の年中行事より—— (1月～4月)

1月1日 歳旦祭	市内各社寺
4日 蹤鞠始め 午後2時	下鴨神社
10日 十日ゑびす 午後2時	恵美須神社
14日 裸踊り 午後7時	法界寺
15日 柳のお加持と弓引始め 午前8時	三十三間堂
2月2日～4日 節分会	市内各社寺
23日 五大力尊仁王会 午前9時	醍醐寺
24日 さんやれ祭 正午	上賀茂神社
25日 梅花祭 午前10時	北野天満宮

3月14日～16日 東福寺涅槃会 午前9時	東福寺
泉涌寺涅槃会 午前9時	泉涌寺
15日 涅槃会・お松明式	清涼寺
4月10日 川上やすらい祭 午後1時	川上大神宮
第2日曜 今宮やすらい祭 正午 (光念寺出発)	今宮神社
玄武やすらい祭 正午	玄武神社
21日～29日 王生狂言 (午後1時～午後5時30分 29日のみ午後10時まで)	壬生寺
※都合により行事日時変更の場合がありますのでご了承下さい。	